

上海万博

Q: 万博とはなんですか

A: 万博は、国際博覧会条約に基づく国際的なイベントで、正式名称を「国際博覧会」と言います。1851年にロンドンで初の万博が開催されて以後、パリやニューヨーク、大阪など、様々な国の都市で開催されています。

万博は現在、大規模で総合的なテーマの「登録博覧会」と、規模やテーマが限定された「認定博覧会」の2種類に分類されており、今年開催される上海万博は登録博覧会にあたります。

Q: 上海万博の概要や特徴を教えてください

A: 上海万博は、中国で開催される初めての万博で、2010年の5月1日から10月31日までの6カ月間にわたり開催される予定です。

これまでの万博史上、最大規模を誇っており、会場の面積は328ヘクタール、参加予定国・国際機関数は約220となっています。また、目標来場者数は7,000万人と、過去最多を記録した大阪万博(1970

年開催)の6,400万人を上回る人数が掲げられています(図表)。

主な特徴は、これまでで初めて都市のあり方に焦点を当てている点です。“Better City, Better Life”(「より良い都市、より良い生活」)というテーマのもと、持続可能な都市化のモデルケースを示す「ベストシティ実践区」を設け、世界の主要都市が出席するという試みが行われます。

また、愛知万博に続き、環境負荷の軽減を重視している点も特徴で、エコカー活用や来場者への排出権購入呼びかけなどにより、開催に伴うCO₂排出量をゼロにすることを目指しています。

なお、日本は、政府が「日本館」、民間が「日本産業館」を出席するほか、大阪市と大阪府が、ベストシティ実践区に「大阪館」を出席することになっています。

Q: 上海万博開催にはどのような意義があるのでしょうか

A: まず、会場を中心とする周辺地域のインフラ投資や、国内外から

の訪問客増加による観光関連産業の活性化などによる経済効果が見込まれます。具体的には、約3兆円や20兆円前後など、様々な試算結果が紹介されています。

また、新しい技術や文化が社会に普及するきっかけとなる可能性もあります。例えば、現代の生活に根付いているワイヤレスフォン(現在の携帯電話)や動く歩道、ファストフードなどの技術・文化は、大阪万博で登場した後に普及が進んだとされています。

今回の上海万博の場合、会場で利用される発光ダイオード(LED)照明や電気自動車のバス、ベストシティ実践区でロンドンが「ゼロ炭素排出館」として展示する環境配慮型の住宅など、環境関連の技術やライフスタイルが、開催後に普及していくことが期待されます。

このほか、中国が、経済・社会の発展の様子を世界にアピールする機会になると同時に、世界各国が、成長を続ける中国市場に向けて自国の文化や最先端の技術を紹介する機会にもなるでしょう。

世界中の人々が集う機会となる上海万博は、2008年開催の北京五輪に続き、中国にとって国家の威信をかけた重要なイベントであるといえます。無事に成功を収め、中国が国際的な評価を高めることができるか、注目されます。■

●これまでに開催された主な万博と上海万博の比較

開催地	開催年	会場面積 (ヘクタール)	参加国数 (カ国)	来場者数 (万人)
大阪(日本)	1970	330	81	6,400
つくば(日本)	1985	101	85	2,000
セビリア(スペイン)	1992	215	131	4,200
ハノーヴァー(ドイツ)	2000	160	172	1,800
愛知(日本)	2005	173	125	2,200
上海(中国)	2010	328	221	7,000

(注) 1. 上海万博の参加国数は、1月26日時点の公表値。人数は、目標値(他は実績値)。

2. 参加国は、国際機関も含む。

(資料) 上海万博公式ウェブサイトほかより、みずほ総合研究所作成

みずほ総合研究所 アジア調査部中国室
研究員 三浦祐介
yusuke.miura@mizuho-ri.co.jp